会報
アルテピア
第66号
平成27年3月
一般社団法人 北海道美術館協力会
札幌市中央区北2条西17丁目　TEL・FAX 011－644－4025
http://www.artepia.or.jp

シャルル＝エミール・ジャック《森の中の羊飼いと羊の群れ》

1865～70年頃　油彩・キャンバス　81.2×65.0cm　北海道立帯広美術館蔵（帯広市寄託）

寄り添い合って木陰で丸まる羊たちに、草を食む羊たち…。思い思いに過ごす羊の様子が、毛並みの質感まで伝わってくるような細やかな筆致で描かれています。一方、画面の半分を占める一本の大きな木に注目すると、絵の具を厚く塗り重ねる描き方で、節くれ立った幹、激しく曲がった枝、生い茂る葉が詳細にとらえられていることがわかります。

ジャックはバルビゾン派の代表的な画家の一人であり、ミレーとともにバルビゾン派の礎を築いたことで知られています。最初、版画家、風刺画家、挿絵画家として高い評価を得ていましたが、ミレーとの出会いを機に油彩画の制作も始め、1848年にはミレーとともにバルビゾン村に移住しました。ジャックは、羊や鶏といった家畜を題材とした作品を多く描き、人気を集めました。

19世紀中頃のフランスでは、多くの画家たちが、都市化の進むパリを離れて、自然豊かなバルビゾン村へと訪れました。彼らはそこで、変化に富んだ自然の造形や素朴な田園生活を描きとっていきます。本作は、そうした時代背景のもとで制作されたもので、牧歌的な情景のなかに、人間と動物が自然と調和して、ともに生きる世界が表現されています。

（北海道立帯広美術館学芸員　野田佳奈子）

東川町写真コレクション展

写真インパクト!

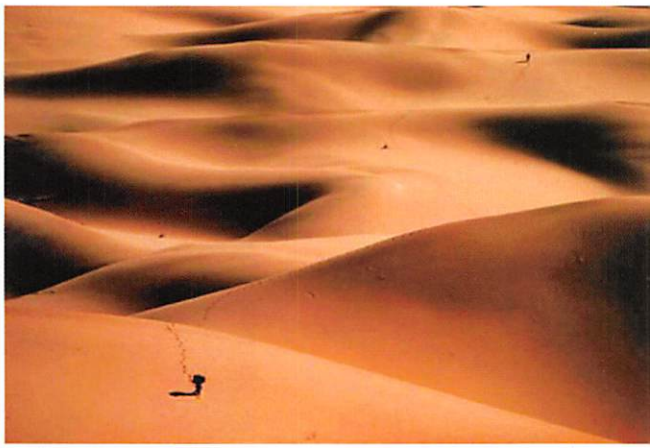
まなざしは記憶され　イメージは幻想のように

北海道立旭川美術館　学芸課長　平　利弘

7月3日(金)～8月30日(日)

旭川市に隣接する東川町では、1985年の「写真の町宣言」以来、写真文化の育成を通じ、まちづくりを進めてきました。全国の高等学校に呼びかけて腕を競い合う「写真甲子園」はじめ、さまざまな展示やフォーラム、持ち込み作品のレヴュー、ワークショップなど、地域の啓発にとどまらない幅広い活動を通して、世界に開かれた写真文化の発信を続けています。なかでも、「写真の町東川賞(以下「東川賞」という)」の選定にあたっては、写真評論、文学、アートディレクターなど各界で活躍のフロントランナーを擁する審査態勢とともに、欧米はじめ豪州、アジア、アフリカなどにわたるリサーチを通じて、国内外の優れた作家活動の顕彰を行ってきました。そうした地道で幅広い活動の成果は、受賞作家を中心に約2500点に及ぶ注目すべき写真コレクションに結実しました。

この展覧会では、東川賞の核を成している海外作家賞および国内作家賞、国内新人賞の作家を中心に、北海道とのゆかりを重視した特別作家賞、さらには地域的な視点と貢献にスポットを当てた飛彈野数右衛門賞の作家らの作品のなかから約150点を紹介します。



野町和嘉《「サハラ20年」より》1996年　©野町和嘉

畠山直哉《「ライム・ワークス」より 葛生》1996年　©畠山直哉

東川賞の軌跡を振り返ると、写真表現の可能性を広くとらえ、時代や社会、民族のありようを浮き彫りにしたものから、自然の美しさ、あるいは、内省的なイメージを視覚化したもの、視覚の悦びに充ちたものなど、カメラを向ける対象やその視点、表現に至るまで幅広い領域のものを偏らずすくい上げてきた傾向が見えてきます。その内容的な特徴を挙げるとすれば、写真表現の可能性を広くとらえる懐の深さ、ということができるでしょう。

それらの写真には、再現性や記録性、表現性に優れる、さまざまな視覚体験が写し出されています。異国ならではの独特の暮らしぶり、日常の何気ない情景やそこに立ち現れる事件、見るものにとっては、あたかもその現場を覗き見たような現実感であったり、時間旅行をするような懐かしい感覚であったり、さらに、四季の移り変わりにときめく情感や、二度と立ち会えないような自然の荘厳さにふれる感慨といったものが、とどめられているのです。それは、単なる記録ではなく、そこに立ち会い、カメラを向けたものを突き動かす震えるような思いを伴う、まなざしの記憶というべきものなのです。

また、現実の人間や社会、自然景観を題材にしながらも、独自のイメージの変容を与え、表現性を濃厚に繰り広げる作品も注目されます。そこでは、幻想性や物語性、詩的ニュアンスをたたえながら、創造性豊かな異世界への扉が開かれ、さらなる写真表現の可能性が示されています。

篠山紀信《「シノラマ」より》1985年　撮影：篠山紀信

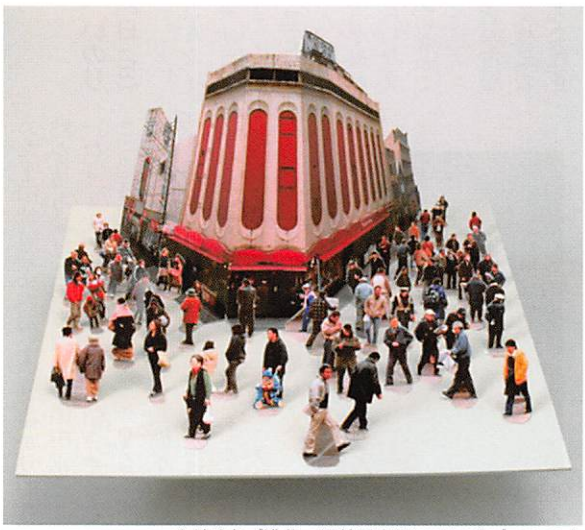
図版に掲載されている《サハラ20年》の野町和嘉は、サハラ砂漠とその厳しい環境のなかでたくましく生きる人々の姿をカメラに収めてきました。《「シノラマ」より》の篠山紀信は、独自の感性で時代の諸相をダイナミックにとらえ続けています。《〈ライム・ワークス〉より葛生》の畠山直哉は、鉱山を題材として自然と都市や人間との関係性を探求し続ける作家です。

《センチメンタルな旅 冬の旅》の荒木経惟は、写真制作の起点を徹底してプライベートな生活に置いた特異なスタイルで、多くの写真家に影響を与えています。《浅草　場外馬券場トナリノビル》の糸崎公朗は、路上観察で撮影した題材を模型化など多視点の手法で、現実世界を揺るがすような表現を探求しています。

展覧会では、このほか植田正治や細江英公、中川幸夫、川田喜久治、オノデラユキ、石内都、杉本博司、佐藤時啓など、国内外で活躍する日本人作家に加え、フランスのルシアン・クレルグやチェコのヤン・ザウデク、中国の石少華、メキシコのグラシエラ・イトゥルビーデ、フィンランドのヨルマ・プラーネンをはじめとする外国作家など、多地域から多彩な個性による優れた作品をちりばめてご紹介します。

これらのまなざしの悦びと、異彩を放つイメージに彩られた写真作品の数々は、写真表現の幅広い可能性を示すと同時に、見る側の多様な発見の喜びも与えてくれるに違いありません。

荒木経惟《センチメンタルな旅 冬の旅》1989年　©荒木経惟



糸崎公朗《浅草　場外馬券場トナリのビル》2003年
©糸崎公朗　CE：senkichi

東川町写真コレクション展

写真インパクト!

まなざしは記憶され、イメージは幻想のように

北海道立旭川美術館
7月3日(金)～8月30日(日)

近代美術館

デュッセルドルフ美術館 ゲルダ・ケプフ・コレクション アール・ヌーヴォーのガラス

4月18日(土)～6月17日(水)

ヨーロッパ随一のガラス・コレクションで知られるデュッセルドルフ美術館。実業家ゲルダ・ケプフ夫人が30余年にわたって収集した第一級のアール・ヌーヴォーのガラス作品群を同館に寄贈したのは1998年のことです。

19世紀末から20世紀初頭にかけてフランスを中心に幅広い分野で花開いたアール・ヌーヴォー様式は、ガラスの分野でひときわ華やかな光彩を放ちます。その重要な源泉であったジャポニスム(日本趣味)を色濃く反映したパリのガラス工芸家たち。そしてドイツ国境に近いアルザス＝ロレーヌ地方のナンシーで、同様に東洋美術に傾倒しながら深い芸術表現の可能性を切り開いたエミール・ガレ。また、ガレに強い刺激を受けて同時代を並走するドーム兄弟。そして彼らの周辺の魅力的なデザイナーや職人たち。本展では、こうした珠玉のガラス作品によるケプフ・コレクションの130余点を一堂に紹介します。現代にまでつながる新しいガラス芸術の創造の軌跡を、心ゆくまでお楽しみください。

ドーム兄弟
(アンリ・ベルジェのデザインに基く)
《花器(ブドウとカタツムリ)》
1904年　デュッセルドルフ美術館蔵
© Stiftung Museum Kunstpalast, Düsseldorf, Foto: Studio Fuis - ARTOTHEK

三岸好太郎美術館

特別展　ワンワンワンッダフル！ あの犬に会いたい

9月5日(土)～10月21日(水)

人類と犬は長い歴史を共にしてきました。一説にその歳月は3万年以上ともいわれ、あるときは生活の上でなくてはならない友であり、またペットとして人の心をなごませ癒やしてくれる存在と、人間にとってかけがえのない動物であり続けています。三岸好太郎の初期作品にも、ちょっと気になる犬の姿が描かれているものがあります。それらを出発点に、近現代の様々な美術作品に登場する犬の表現を中心に、犬の文化誌もちょっと紹介。古くから人間と最も親しい関係にあった犬は、美術家たちにどのようにとらえられているでしょうか。愛らしい犬、たのもしい友だち、魅力的なワンちゃんたちが集まる楽しい展覧会です。どうぞ会いに来てください！

あわせて会期中、犬ではありませんが〈猫〉〈飛ぶ蝶〉など当館所蔵の三岸好太郎の代表作も展示します。

三岸好太郎
《ラケットを持つ少年と少女と犬》
1922年頃

旭川美術館

北海道の四季と風土

9月11日(金)～11月8日(日)

短い夏に、長く厳しい冬。最北の地、北海道では独特のリズムで四季が刻まれます。そこでは、気候や風景、そして住まう人々の営みが複雑に絡み合い、北海道ならではの風土とも呼べるものが育まれてきました。

北海道の風景をモティーフに描いた作品はもちろん、人々を描いた作品、また、北海道ゆかりの作家の作品の中には、北海道の風土が色濃く反映されているものが少なくありません。

本展では、北海道の雄大な大地や澄明な空気といった、四季の表情を描きだそうとしたものから、そこに根ざし、風雪に耐え暮らす人々の精神が表れているものまで、北海道の風土が生み出した作品、風土が表れている作品をご紹介し、その魅力をご堪能いただきます。

道外の方はもちろん、道内の方も改めてここ北海道の魅力を発見してみませんか？ご来館お待ちしております。

朝倉力男《河畔の厳冬》1954年　油彩、キャンバス

函館美術館

スサノヲの到来 ―いのち、いかり、いのり

4月11日(土)～5月24日(日)

皆さんは「スサノヲ」と聞いて、どんなイメージを持たれるでしょうか。母イザナミを思い泣き続けた「駄々っ子」。姉アマテラスが岩戸にこもるほどの狼藉を働いた「暴れ者」。ヤマタノオロチを退治し、生け贄だったクシナダヒメを妻とした「英雄」。さらに、天を追われさすらう姿や、農業や歌をもたらした文化神など、その活躍ぶりは記紀神話のなかで、最も印象的で魅力的な存在だといえます。

本展は、「スサノヲ」をテーマに、神話の古層を示す縄文土器から、時代により多様に表現されたスサノヲ像、諸国をさすらった芭蕉や西行、神学・民族学者として異界を見つめた平田篤胤や折口信夫、神掛かり的な情熱を持ち続けた南方熊楠や田中正造など、いわば「スサノヲ」的生き方を紹介するもの、さらには現代美術家による「スサノヲ」的表現まで、時空、ジャンルを超えた展示を展開します。その広がり故、スサノヲの姿はすぐには見えてこないかもしれません。しかし、作品の向こう側まで迫ることによって、スサノヲは我々の前に到来することでしょう。

佐々木誠《八拳須》2011年
木彫・彩色　作家蔵
写真撮影：富野博則

帯広美術館

勅使河原蒼風の眼と美の潮流
草月流秘蔵コレクション展
7月4日(土)～9月6日(日)

いけばな草月流の創始者で、その天才的な造形力から『タイム』誌に「花のピカソ」と称された勅使河原蒼風（てしがわらそうふう／1900～1979）。華道の概念をくつがえす独創的な仕事で前衛いけばなブームを巻き起こし、いけばなを国際的な芸術表現まで高めたことでも知られています。さらに絵画、彫刻、書、オブジェへと表現世界を拡大し、異色の表現者として活躍しました。また蒼風ならではの審美眼と感性で、東西の古代美術から日本の古美術、優れた現代美術の数々を収集し、現在は「草月流アートコレクション」として注目を集めています。

本展では、勅使河原蒼風はじめ、蒼風の長女で二代家元の勅使河原霞（1932～80）、蒼風の長男で映像作家として活躍した三代家元勅使河原宏（1927～2001）の作品とともに、蒼風から歴代家元へと受け継がれた「草月流アートコレクション」のなかから、俵屋宗達、岡本太郎、ピカソ、ミロ、ダリ、ウォーホルなど、多彩なコレクション約70点を厳選、展観します。

勅使河原蒼風《半神半獣》1955年

釧路芸術館

招き猫亭コレクション　猫まみれ展
アートになった猫たち―浮世絵から現代美術まで
7月15日(水)～9月6日(日)

猫と人がいっしょに暮らした最古の痕跡は、キプロス島にある9500年くらい前の遺跡に見出すことができるそうです。ねずみ退治の能力を買われて家畜化された猫たちは、その後、人の移動にともなって世界各地に広がり、それぞれの土地に合った変化を遂げていきます。島国・日本に猫がやってきたのは、6世紀半ばのこと。中国から、仏教の経典と共に舶来したと言われています。日本に上陸した猫は、ここでも、人の暮らしにとけ込んでいきました。

今や、猫が人の生活の役に立つことは、ほとんど無いかもしれません。けれども、猫は、その姿や仕草の愛らしさによって、私たちを魅了し続けています。これは美術の世界にも及び、彼らのとりことなった作家は数知れず。猫をモチーフにした「猫作品」も多く生み出されています。

本展では、猫と猫作品を愛してやまない収集家「招き猫亭」のコレクションの一部を、ご紹介。古今東西の絵画や素描、版画、立体など、多彩な作品が並びます。さまざまに表現された猫たちに、ぜひ、まみれにいらしてください。

高橋弘明《ジャパニーズボブテイル》1924年

札幌芸術の森美術館

「目で楽しむ音楽展」
4月4日(土)～4月19日(日)

札幌コンサートホールで所蔵するモノクロ写真や、札幌交響楽団に尽力した音楽家の姿を捉えた写真に加え、音楽を感じさせる絵画や彫刻からなる展覧会です。ピアノにもたれかかってポーズをとるピアニストや、練習中に見せる指揮者の何気ない姿を捉えた写真、札幌交響楽団の初代札幌の音楽史をつくった音楽家のポートレート写真。また、豊かな色彩と心地良いリズムのある世界観を味合わせてくれる渡会純价の版画、軽やかに洗練された、まるで三次元的にドローイングしているかのような國松明日香の立体作品、時におどろおどろしくも華やかで、カーニバルの賑わいやその場の音楽が聴こえてきそうな竹岡羊子の絵画など、音楽をモチーフにした美術作品もご紹介します。

コンサートや演奏会に足を運ぶことの醍醐味のひとつは、音楽を全身で感じとることでしょう。なかでも、音とともに躍動するリズミカルな身体の運動や、真摯に音楽に取り組む表情などは、音楽を感じるうえで「目で見る部分」にあたるかもしれません。本展をとおして、コンサートとは異なる視点から音楽を楽しんでみてください。

渡会純价《SYMPHONY》1992年
エッチング、紙　札幌芸術の森美術館蔵

本郷新記念札幌彫刻美術館

第1回本郷新記念札幌彫刻賞受賞記念
谷口顕一郎展
7月11日(土)～9月27日(日)

国内のパブリックアートを対象に1983年以来隔年で実施してきた本郷新賞は、50歳未満の若い彫刻家を対象とした本郷新記念札幌彫刻賞へと生まれ変わりました。第1回の受賞作品は、谷口顕一郎氏（1976～／札幌市）による《凹みスタディー琴似川北12条西20丁目―》。地下鉄大通駅構内にオープンした大通交流拠点地下広場で今年2月4日に除幕を迎えた本作は、今後3年間、同広場に展示されます。

この受賞を記念し、谷口氏の個展を開催します。都市の街路や壁などの亀裂や破損を「凹み」と呼び、その形状をもとに彫刻を制作する「凹みスタディ」シリーズから、札幌の琴似川流域に取材した作品を中心に、欧州各地で制作した作品を加えて構成します。ふだん人々から見過ごされ、あるいはネガティブにとらえられる「凹み」に着目し、あざやかな黄色のポジティブな造形へと転換したユニークな作品群をお楽しみください。

谷口顕一郎
《凹みスタディー琴似川 北12条西20丁目―》

MUSEUM CALENDAR
2015.4〜2015.10

美術館のおもな展覧会ご案内

は特別展示室　は常設展示室

	4	5	6	7	8	9	10
近代美術館		4/18(土)〜6/17(水) デュッセルドルフ美術館 ゲルダ・ケプフ・コレクション アール・ヌーヴォーのガラス		6/27(土)〜8/23(日) 夢見るフランス絵画 印象派からエコール・ド・パリへ		9/1(火)〜10/12(月・祝) 日韓近代美術家 のまなざし	
		4/18(土)〜6/17(水) 菊川多賀展 ふれるかたち 新収蔵品展 春季名品選		6/27(土)〜8/23(日) 淡島雅吉展 日本画逍遙 夏季名品選		9/1(火)〜12/6(日) 高橋三太郎展 ガラスのかたち-吹きガラスの魅力 秋季名品選	
	TEL 011-644-6883 近美札幌館 検索						
三岸好太郎美術館		4/9(木)〜6/21(日) 所蔵品展第1期 三岸好太郎人物図鑑		6/27(土)〜8/23(日) 所蔵品展第2期 その時ミギシは動いた ー前進!前進!の31年		9/5(土)〜10/21(水) 特別展 ワンワンワンッダフル! ーあの犬に会いたい	
	TEL 011-644-8901 三岸美術館 検索						
旭川美術館		4/17(金)〜6/21(日) ガンドウール美術財団 古代エジプト美術の世界展　魔術と神秘		7/3(金)〜8/30(日) 東川町写真コレクション展　写真インパクト! まなざしは記憶され、イメージは幻想のように		9/11(金)〜11/8(日) 北海道の四季と風土	
		4/17(金)〜 8/30(日) シカクイ、マルイー形のわけあり物語ー				9/11(金)〜11/8(日) バード&バードハウス 織田コレクションを中心に	
	TEL 0166-25-2577 旭川美術館 検索						
函館美術館		4/11(土)〜5/24(日) スサノヲの到来 いのち、いかり、いのり	5/31(日)〜7/9(木) ミュージアム・ コレクション・スペシャル 鷗亭・卓義　父子の詩	7/15(水)〜20(月) 北海道書道展 函館展	7/26(日)〜9/6(日) 没後30年　鴨居玲展 踊り候え	9/12(土)〜11/8(日) 勅使河原蒼風の眼と美の潮流 草月流秘蔵コレクション展	
		4/11(土)〜5/24(日) 神話を描く 金子鷗亭 松尾芭蕉を書く		7/15(水)〜11/8(日) 百花繚乱／筆勢の世界			
	TEL 0138-56-6311 函館美術館 検索						
帯広美術館	~4/15(水) バルビゾン 19世紀の絵画と写真	4/24(金)〜6/21(日) みんなのためのはじめて・あーと		7/4(土)〜9/6(日) 勅使河原蒼風の眼と美の潮流 草月流秘蔵コレクション展		9/13(日)〜11/23(月・祝) 招き猫亭コレクション 猫まみれ展	
	~4/15(水) 井田照一展 接点としての版画	4/24(金)〜6/21(日) 水の情景 〜満ちる色・たゆたう形〜		7/4(土)〜9/6(日) 花・彩る Flowers in Art		9/13(日)〜11/23(月・祝) 羊(メエ)、羊(メエ)、牛(モー)、牛(モー)	
	TEL 0155-22-6963 帯広美術館 検索						
釧路芸術館		4/10(金)〜7/5(日) パリ・時間旅行 ポスターとガラスでたどる100年前の街角		7/15(水)〜9/6(日) 招き猫亭コレクション 猫まみれ展		9/12(土)〜11/11(水) 五味太郎作品展 〔絵本の時間〕	
		5/16(土)〜5/24(日) 池田緑展 FOUR WORD STORIES					
	TEL 0154-23-2381 釧路芸術館 検索						
札幌芸術の森美術館	4/4(土)〜 4/19(日) 目で楽しむ 音楽展	4/25(土)〜 5/26(火) 前編 浮世絵師　歌川国芳展	5/30(土)〜 6/28(日) 後編	7/11(土)〜8/30(日) スター・ウォーズ展		9/9(水)〜11/8(日) スイスデザイン展	
	TEL 011-591-0090 芸術の森美術館 検索						
本郷新記念札幌彫刻美術館	~4/19(日) 彫刻の できるまで	4/25(土)〜6/28(日) 彫刻の美　本郷新に学ぶ彫刻鑑賞		7/11(土)〜9/27(日) 第1回本郷新記念札幌彫刻賞受賞記念 谷口顕一郎展			10/3(土)〜 田上義也と 彫刻美術館
		4/28(火)〜10/18(日) 本郷新の描いた山々					10/20(火)〜 ちょうこく 動物園
	TEL 011-642-5709 本郷新彫刻美術館 検索						

○開館時間　9：30 〜 17：00　（入館は 16：30 まで）　※芸術の森 9:45 〜 17:00　（6 月から 8 月は 17:30 まで）
○休 館 日　●毎週月曜日（月曜日が祝日又は振り替え休日のときは開館、翌火曜日休館）
●年末年始（12/29 〜 1/3）　●展示替え期間　（展覧会と展覧会の間）
※施設により臨時休館、臨時開館の場合もありますので、各施設のホームページでご確認いただくか施設にご確認願います。

※会員証の利用について　貸館の観覧は会員証が利用できない場合がありますので、ご了知願います。

第56回　学生美術全道展
平成26年10月11日～13日　札幌市民ギャラリー

全道美術協会賞、北海道美術館協力会賞を受賞したのは、北海道立岩内高校1年生の谷口進吾さん。全道の大学生、専門学校生、高校生による4部門（絵画・版画・彫刻・工芸）の応募総数315点、うち入選276点の中から選ばれた絵画作品である。

高校1年生での受賞は1987年以降27年ぶり、3人目という快挙となった。

受賞作品『痕跡』は、居住する共和町の町を鳥瞰図のように描き出したもの。乾いた土道に残ったタイヤ跡や石ころを細部まで正方形（変形120号）の画面の中に描き込んでいる。「これからも見慣れた風景の中に形の面白さ、造形美を見つけて描いていきたい」と谷口さんは語っていた。

全道美術協会賞・道美術館協力会賞　受賞作品『痕跡』
谷口　進吾（岩内高校）

道展U21 スモールコスモス
平成26年12月25日～27日　札幌時計台ギャラリー　大丸藤井セントラル（スカイホール）

中学1年～21歳を対象とした美術公募展「道展U21スモールコスモス」（北海道美術協会主催）の入賞・入選者が昨年12月24日発表された。今回は全道学生道展の最高賞を受賞した岩内高校の谷口進吾さんの『礫』が「北海道美術館協力会賞」に選ばれた。

過去7回開かれている会場の札幌市民ギャラリーが改修工事で使えないため、今回は通常と異なる「特別企画展」として、2会場で平面・立体合わせて965点の作品が展示された。後援団体でもある当協力会からは、優秀作品1点に記念の盾を贈呈している。

道美術館協力会賞　受賞作品『礫』
谷口　進吾（岩内高校）

ジュニア・アート・クラブ2014
コロコロ　カキカキ　スーリスリ！
～モノプリントで版画を作ろう～

毎回好評のアルテピア主催のアート・クラブ。平成26年度の2回目が11月1日（土）に近美造形室で開催された。小学生21名が、可愛いエプロン姿で黒色の油絵の具を塗った鏡を使って、ユニークな版画作りに挑戦。初めは戸惑っていたが、造形指導者の小野寺歩さんの分かりやすい説明と指導ですぐ夢中に。

こどもたちは作品が乾く迄の間、ギャラリーツアーへ。部屋に戻ると自信作一枚に水彩絵の具で彩色。仕上がった作品は、用意してあったダンボールで作られた額に入れて、館内に展示された。

ご入会ありがとうございました　新会員紹介　2014年8月～2015年2月・敬称略

*個人会員

8月
札幌市　中谷　祐嘉
〃　伊藤　美樹
〃　須藤　光子
〃　羽角　亘
岩内町　小林　澄子
稚内市　柴田　孝

9月
札幌市　大柳　和子
〃　富樫　正子
〃　辻村　紀子

10月
札幌市　宮入　建夫
札幌市　宮入　春美
〃　山鹿　稚佐
〃　宮崎　早智子
小樽市　松羅　順子

11月
札幌市　後藤　祐資
札幌市　讃良　岳宏
〃　中川　雅子
旭川市　森田　陽子

1月
札幌市　川守田　京子
〃　中島　敏子

2月
札幌市　菊地　満代
〃　中川　隆
〃　久保田　雅彦
名古屋市　亀田　光生

*法人会員

11月
札幌市　（株）日本旅行北海道札幌支店

12月
札幌市　株式会社　すし善

アルテピアニュース

「子ども美術鑑賞事業」
平成26年9月9日

今回は札幌市立札幌小学校6年生40名と引率者3名の43名を招待しました。

この事業は子どもの美術への関心を高めるため毎年行われており、資料を手に近美収蔵の特別展「アートと旅する500年」を鑑賞しました。

また同時開催中の札幌国際芸術祭も興味深く見学していました。

好評! 冬休みのイベント「ミニ・アトリエ」
平成26年12月20日~27年1月18日

特別展「冬のワンダー☆ミュージアム2015どうぶつ達大集合」に合わせて、ミニアトリエが会場内で行われました。オリジナルカードを作るテーブルでは、森迫暁夫さんの展覧会キャラクターなどを描き皆さん楽しそう！

また、畳を敷き和室風に設えたコーナーには動物の絵本が多数用意されており、読み聞かせをする親子連れや懐かしそうに手に取る大人の姿も多く見られました。ミニアトリエの参加者は子供と大人を合わせて1,582人でした。

ぐるっと三館鑑賞ツアー
平成26年9月17、18、19日

26年度から春秋2回開催されることになった「ぐるっと三館鑑賞ツアー」37名の参加者が近美、知事公館、三岸美術館の解説を聞きながら巡りました。

スタートは近美の特別展「アートと旅する500年」年代記と銘打った今回のユニークな企画にはデューラーの銅版画やケンプのステンドグラスなどが展示されていました。次に、今なお知事の公式接見の場として使われる知事公館をくまなく見学した後「三岸好太郎と池田満寿夫」展へ。館内カフェでひと休み。昭和戦前期を駆け抜けた夭折の天才画家好太郎と、彼の没年に生まれ美術の枠を超え多岐にわたり活躍した池田満寿夫の軌跡をたどりました。

［訂正］ 前回65号"ぐるっと三館鑑賞ツアー"の記事のなかでジョルジュ・パスキンと記載されていましたが、正しくはジュール・パスキンの間違いです。訂正してお詫び申し上げます。

第33回　海外研修旅行

2014.9.29 ~ 10.6
美の探訪

南仏プロバンス＆コートダジュール

ニース　ジュール・シェレ美術館

アルル　ゴッホゆかりの建物前で

マントン　ジャン・コクトー美術館

編集だより

■北国の遅い春を迎える嬉しさはひとしおですね。お手もとに届きますアルテピア66号を片手に、美術館めぐりをお楽しみください。

■昨年のノーベル物理学賞受賞でにわかに脚光を浴びることになった白色LED。いまや省エネのトップランナーです。皆様のご家庭でもすでに設置したという方は多いでしょう。近美でも昨秋の改修工事で白色LEDに替え、節電と作品の保護に努めています。 (A)

Museum shop

今、気になる商品はこれ！

ポストカードセット（7枚入）　¥648

書籍　¥1,700～

クリアファイル ¥227

一筆箋 ¥648

近美 Museum shop では
アイヌ関連商品など
多数取り扱い中

(株)アキ工作社の
段ボール製組立キット
HTB モーニングバードで紹介